

『実況・料理生物学』補訂箇所

増刷に伴い、下記のように補訂しました。訂正につきましては謹んでお詫び申し上げます。
なお、3刷での補訂はありません。

●初刷補訂箇所（2012年1月27日）

p.14 7行目

コピーにトライ → 国産化にトライ

p.14 12行目

コピーに成功 → 調配合に成功

p.15 注5

赤字に黒で意外な建物の絵が描いてある。十分タージ・マハルに似ている。…
→ 赤字に黒で意外な建物の絵が描いてあり、タージ・マハルに似ている。…

p.47 後ろから4行目

健次郎氏 → 建次郎氏

p.50 後ろから7行目

かん水に250mLに塩5g → かん水250mLに塩5g

p.53 3行目

タンパク質分子の端にSHのヒゲが → タンパク質分子の途中にSHのヒゲが

p.60 14, 16, 17行目

p.61 4行目

最長筋 → 胸最長筋

p.76 4行目

滝廉太郎の → 滝廉太郎作曲の

p.75 図 3-2

図版差し替え キャプション：ミュンヘンのオクトーバーフェスト（篠田陽博士提供）

p.90 図 3-15

新規追加 キャプション：ハンブルク駅構内のマクドナルド（篠田陽博士提供）

p.153 後ろから 3 行目

青菜 → 白菜

p.187 図 6-6 キャプション

三ツ矢塔 → 三ツ矢塔。コーナン川西平野店に隣接。

p.197 図 7-3 図説明

脱脂乳。 → 脱脂乳。（富永恵子博士撮影）

● 2刷補訂箇所（2013年6月21日）

p.16 後ろから3行目追加

一四九二年一月四日のことだという。それは何か。そう、それがトウガラシ。だから翌年三月スペインに…

p.41 後ろから5行目

嚙歯類 → モルモット

p.51 注7 3行目

グリシジン → グリアジン

p.69 図2-17 図説明2行目

水は → 水（黒丸）は

p.73 後ろから6行目

植物繊維、セルロース、要するに紙筒のようなもの → コラーゲン製の人造品

p.77 6行目

ヘルマン・ウォシュケ氏の生年 一八九四 → 一八九三

p.85

（注10）全文差し替え

膝の故障もあって二〇一〇年エンゼルスでは打てず、二〇一一年アスレックス、二〇一二年レイズに移籍し、このシーズンををもって引退した。

p.99

コラム内 後ろから8行目「…食用油があった。」後ろから差し替え

油脂（トリグリセリド）の代謝過程をあらかじめ一段階進めておいて（ジグリセリド化）、摂取後に体脂肪に再動員される率を下げるといふ、合理的なダイエット食品だったのだが、ジグリセリド（細胞増殖と関係する）や、もう一段先の代謝産物モノグリセリド（加熱によってエポキシ化してグリシドールエステルになり、発がん性のあるグリシドールを生じる可能性がある）が、発がん要因になると指摘されたためである。しかし、もとの油脂も、正常に代謝された先には同じジグリセリドやモノグリセリドに行きつくのであって、それに発がん性があるなら（あるかもしれない）、それは油脂自体がもつ危険性である。では食用油を禁止すべきだろうか。いや、これもトレードオフなのである。

p.172 後ろから 8 行目

マルターゼ → アミラーゼ

p.197 後ろから 2 行目

赤い光は散乱されやすく青い光は透過しやすい

→ 青い光は散乱されやすく赤い光は透過しやすい

p.198

図 7-4 図説明差し替え

グラスに入れた牛乳を、白色光源（上の○）を背にして眺めているとしよう。実線は長波長光（赤い光）、破線は短波長光（青い光）をあらわす（注 6）。光は牛乳中の粒子に何度も当たってさまざまな方向に反射する。反射は光の波長の長短によらないから、波長成分は変わらない。つまり白い。まずこれが基本。次に散乱を考える。散乱には 2 種類がある。粒子径が光の波長程度以上の場合、散乱率は光の波長によらない（左：ミー散乱）ので、やはり色はつかない。雲が白いのは、上記の多重反射とミー散乱による。しかし、粒子径が光の波長より十分小さいと、散乱率は短波長光ほど大きく、透過率は長波長光ほど大きくなる（右：レイリー散乱）。その結果、目に届く光には短波長成分が多くなる。空が青いのはレイリー散乱による。無脂肪乳中のタンパク質（カゼイン）粒子は、この条件に合致するので、無脂肪乳は多重反射で白い中にも、わずかに青みがかって見える。

● 4刷補訂箇所（2016年4月5日）

p.31 後ろから4行目

（誤）ピルビン酸デカルボキシラーゼ → ピルビン酸デヒドロゲナーゼ

p.33 後ろから6行目

p.34 から図を移動したことにより追加。

アリナミンです → アリナミンです（図 1-17）。

p.34 前から4行目

下記の注を追加

（注 19）別名プロピイン。アリインを化学名でいえば、S-プロペニルシステイン-S-オキシドで、違いは末端がプロピル基かプロペニル基（=アリル基）かだけ。

p.81 図 3-6 ホルマリン固定の左側の図を下図に差替え



protein
network

巻末著者紹介追加

『芸術と脳—絵画と文学、時間と空間の脳科学』（近藤寿人博士らと共著、大阪大学出版会刊）、『お皿の上の生物学』（築地書館刊）